

ポーランドの銀行部門の統合と民営化・国有化について¹⁾

高田 公

はじめに

1980年代末以降、社会主義から資本主義へと体制を移行した中東欧諸国において、銀行部門にみられた顕著な特徴は、「外資系銀行による支配」であった。英国以外の西欧主要国においては外資系銀行の資産比率は一桁台、すなわち3~10%程度であり、また中東欧地域以外の新興市場諸国においても、外資系銀行の資産比率は平均して10~15%と低水準にとどまる(Raiffeisen Research, 2011)。一方で中東欧地域では、2000年代中頃のピーク時には、外資系銀行の資産比率は平均して約8割を占めるほど高い水準であった(高田, 2017)。

しかし近年、中東欧地域の一部の国では、銀行部門の統合が進展する中で、この外資系銀行の比率において低下がみられている。それが目立っているのが、ハンガリーとポーランドである。特にポーランドでは、1990年代から2000年代初め頃の民営化の動きとは逆に、国有銀行の比率が上昇している。本稿では、このポーランドの銀行部門の統合について概観したい。

1 ポーランドの銀行部門の統合 (1989-1997年)

• 社会主義時代の銀行部門の組織

社会主義期には、ポーランドでは他の社会主義国と同様に、国立銀行が中央銀行業務と商業銀行業務を兼務する「モノバンク制度」がとられていた。中央銀行であるポーランド国立銀行(NBP)のほかに、少数の専門銀行があった(Anderson and Kegels, 1998; 田中, 1990)。

• 「二層式システム」の導入

ポーランドでは1989年1月の銀行法とポーランド国立銀行法により「二層式システム」の導入が行われた²⁾。国立銀行から商業銀行業務が分離され、地域別に9つの国有商業銀行が設立され、1989年から操業を開始した³⁾(田中, 1990)。この9つの商業銀行は、ヴィエルコポルスカ信

1) 本稿の一部には、高田(2017)の一部に改訂をほどこしたものを含む。また参考文献の電子媒体の出所は、紙幅の都合で割愛する。最終アクセス日は一部を除き、おおむね2022年8月から10月である。

2) Anderson and Kegels (1998), Balcerowicz and Bratkowski (2001)

用銀行 (Wielkopolski Bank Kredytowy : WBK), シロンスク銀行 (Bank Slaski w Katowicach : BSK), 工商銀行 (Bank Przemyslowo-Handlowy : BPH), グダニスク銀行 (Bank Gdanski : BG), 一般信用銀行 (Powszechny Bank Kredytowy : PBK), 西部銀行 (Bank Zachodni : BZ), ポモージェ信用銀行 (Pomorski Bank Kredytowy : PBKS), 貯蓄信用銀行 (Bank Depozytowo-Kredytowy : BDK), 一般産業銀行 (Powszechny Bank Gospodarczy : PBG) である⁴⁾。

また国有専門銀行への商業銀行免許の付与も進められた。貯蓄銀行である一般貯蓄銀行 (Powszechna Kasa Oszczednosci Bank Polski : PKO BP) と外貨貯蓄銀行 (Bank Polska Kasa Opieki SA : Pekao SA), 外国為替銀行であるワルシャワ商業銀行 (Bank Handlowy w Warszawie : BH), 食品産業向け投資銀行である食糧経済銀行 (Bank Gospodarki Zywosciowej : BGZ) などであった⁵⁾。

このほか、新規参入銀行への免許の付与が行われた。1989年から1991年のポーランドの銀行免許政策は寛大なものであったため、銀行数は急激に増加した(表1)。この新規設立された国内民間銀行の主要な株主は、大きく、1) 経済・産業組織およびその加盟企業、2) 地方政府および公営企業、の2つに分かれていた。銀行部門の規制緩和と近代化により新規設立の民間銀行の市場シェアは徐々に拡大し、1995年時点で資産シェアは24.7%となった⁶⁾。

表1 ポーランドにおける商業銀行 (1989-1997年)

	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997
発行された免許数	8	45	17	5	1	1	7	5	5
全銀行数	25	70	83	85	87	82	81	81	83
うち外国銀行数	0	1	6	9	10	11	18	25	29

出所) Kozak (2013) Table1 より一部抜粋。

しかし銀行部門における規制緩和には負の効果もあった。1991年にはいくつかの銀行で金融状況が悪化する最初の兆候が見られた。これは体制移行の改革の開始以来の経済の低迷のためでもあり、また高いインフレ率とポーランド国立銀行 (NBP) の設定した高い利子率のためでもあった。銀行危機は1993-1994年に最も激しい状況となり、銀行再建プログラムが実施された。このような危機の中で、1992年からNBPは免許政策を厳格化した。1994年にNBPは免許政策を改め、銀行部門への参入を希望する国内外の投資家には、許可は与えるが、銀行再建

- ✓ 3) Abarbanell and Bonin (1997) は、9つの国有商業銀行が地域分割で設立された理由について、地域の企業を保護する政治的圧力と当時の通信手段の未発達 (銀行は郵便で決済を行っていた) を指摘している。
- 4) Anderson and Kegels (1998), 田中 (1990), Balcerowicz and Bratkowski (2001)
- 5) Anderson and Kegels (1998), 田中 (1990), Balcerowicz and Bratkowski (2001)
- 6) Kozak (2013)

プログラムの中で苦境にある銀行の買収を求めた^{7) 8)}。

このように、初期の商業銀行部門⁹⁾が形成されたが、移行の開始当初は、その大部分を占めたのは、国有銀行であった。ポーランドでは資産シェアは、1992年には4大銀行（旧専門銀行）で52%、国立銀行から分離された地域別の9商業銀行で29%、あわせて13行で81%となっていた¹⁰⁾。1995年時点の資産シェアでも、4大銀行は、PKO BPが15%、Pekao SAが14%、BHが8%、BGZが8%であり、地域別の9商業銀行のシェアはいずれも1~4%であった¹¹⁾。ほぼ同時期に銀行部門の移行を開始したハンガリーやチェコに比べると、ポーランドの銀行部門の集中度はより低くなっていたのが特徴である¹²⁾。一方、かつての国立銀行資産が地域別に分割されたため、各地域内での集中度は高かったという¹³⁾。

このような銀行部門における国有銀行中心の形を変化させるため、ポーランド政府当局は主要銀行の民営化プログラムを進めることとなった。財務省は、銀行民営化プログラムの責任者として、地域別の9商業銀行を「1996年末まで」に民営化することを宣言した¹⁴⁾。

・ポーランドの銀行民営化（1992-1994年）

Abarbanell and Bonin (1997)によれば、ポーランドの国有企業民営化法では、銀行の民営化は4つの方法（公開入札、株式公開、交渉による売却、従業員への売却）とその組み合わせを通じて行うことができることが定められていた。また財務省は、国家が30%の残余持分を保持し、国内投資家が40-50%、従業員が10%、戦略的投資家が10-20%という折衷的な所有構造を取ることを当初の青写真として描いていたという。

中東欧諸国の銀行民営化において用いられた民営化手法は、主に、「公募（Initial Public Offering：IPO）方式」¹⁵⁾、「外国戦略的投資家への売却（Sell-out to Strategic Foreign Financial Investors：SFFI）方式」¹⁶⁾、「バウチャー方式」¹⁷⁾の3つである。また「従業員への売却方式」

7) Ibid.

8) そのようなM & Aの実施として、Kozak (2013)では、1993-1997年における国内銀行による銀行の合併・買収が18件、1994-1999年における外国銀行による国内銀行の合併・買収が12件報告されているが、本稿では紙幅の都合により割愛する。

9) ポーランドの銀行部門には、商業銀行のほか、多数の協同組合銀行があるが（総計で銀行部門資産の5%前後を占める）、本稿では紙幅の都合により取り扱わない。

10) Anderson and Kegels (1998)

11) 1995年の資産シェアの数値は、Anderson and Kegels (1998) p.136, 表5.3より。

12) ハンガリーでは5大銀行で1987年には93.8%、1990年には82.6%を占めていた。チェコでは5大銀行で1992年には82.7%であった（Anderson and Kegels, 1998）。

13) Anderson and Kegels (1998)

14) Ibid.

15) 「公募方式」（IPO方式）とは、市場を通じた公募の形で、機関投資家または一般投資家に株式を売却する方式である。

が補完的に用いられた。

輸出開発銀行 (Bank Rozwoju Eksportu : BRE) は、比較的小規模の国有銀行 (旧専門銀行) で、最初に民営化された。1992年に IPO 方式で 85% の持分が売却され、15% が国家持分として残された。その後ドイツの銀行 Commerzbank が 1995年に市場で 21% を獲得し、1997年には増資分を買い取り 48.7% に持分を増やした。

地域別 9 商業銀行の最初の民営化は、ヴィエルコポルスカ信用銀行 (WBK) であった。この民営化では、SFFI 方式、IPO 方式、従業員への売却方式の混合という折衷的な方式がとられた。しかし SFFI 方式での戦略的投資家が見つからず、国際金融機関である欧州復興開発銀行 (EBRD) が一時的に 28.5% の持分を取得した。また IPO 方式で 27.2% の持分が売却され、従業員へは 14.3% が割当てられ、国家に 30% の持分が残された。1995年 3月には増資された 16.26% の持分をアイルランドの銀行 Allied Irish Bank (AIB) が獲得した。AIB は 1996年には 36.3%、1997年にはさらに 60.14% と持分を増加させて、単独で過半数を所有することとなった。

同じく地域別 9 商業銀行のシロンスク銀行 (BSK) の民営化においても折衷的な方式がとられたが、やはり SFFI 方式の戦略的投資家が見つからず、1993年 10月に入札がキャンセルされた。その結果、入札価格を基準とすることとしていた IPO 方式の当初売却価格の設定が混乱し、最終的には政治問題にまで発展するという「シロンスク銀行問題」が生じた。IPO 方式で 30%、従業員に 10% が売却されたほか、戦略的投資家としてはその後 12月にオランダの銀行 ING が名乗りを挙げて 25.9% を取得し、国家には 33.2% の持分が残された。1996年には ING の持分は単独で過半数となる 54.98% となった。

このように、最初の民営化は IPO 方式で行われ、次の 2つの地域別 9 商業銀行の民営化は、折衷的な方式 (SFFI 方式、IPO 方式、従業員への売却方式の混合) で行われた。

・ポーランドの銀行民営化 (1995-1997年)

「シロンスク銀行問題」の後、民営化政策が変更され、1995年から 1997年までの 4銀行の民営化は、戦略的投資家を求めず、IPO 方式で行われた。

工商銀行 (BPH) の民営化では、1995年に 50.2% の持分の売却が IPO 方式で行われたが需要が伸びず、15.06% を発行引受人であった EBRD が所有することとなった。所有は分散化され、また 43% が国家持分として残された¹⁸⁾。

✓ 16) 「外国戦略的投資家への売却方式」(SFFI 方式) とは、入札と交渉を通じて、長期保有を目的とする特定の海外の投資家 (戦略的投資家) に株式を直接売却する方式である。

✓ 17) 「バウチャー方式」とは、特殊な証券であるバウチャー (クーポン) を国民に無償もしくは低価格で配布し、民営化される企業の株式と交換する方式である。ポーランドの銀行民営化では用いられていない。

18) その後政府の銀行統合計画では BPH を再国有化して BH と合併する案も取りざたされたが、結局取り下げられた。

グダニスク銀行 (BG) の民営化では、IPO 方式が 2 層に分けられ、1995 年に国内市場で 31.8%、海外市場で預託証券の形で 25% が売却された。このほか従業員に 4% が売却され、残された国家持分は約 40% であった¹⁹⁾。国内での IPO 方式による売却によって、ポーランドの国内銀行 Bank Inicjatyw Gospodarczych (BIG) が BG の持分の 24.1% を獲得した。その後 BIG は BG における持分を 1996 年に 31.23%、1997 年にはさらに 63.42% に増やした。1997 年に BIG bank と BG は合併し、BIG Bank Gdanski となった²⁰⁾。

一般信用銀行 (PBK) は、1997 年に IPO 方式で 51.7% の持ち分が売却された。また従業員には 15% の持分が売却され、国家持分が 33.3% 残された。

ワルシャワ商業銀行 (BH) と外貨貯蓄銀行 (Pekao SA) については、1995 年秋の政府の銀行統合計画では、再編で規模を大きくし、予想される対外開放による国外銀行との競争に耐えるような国内の「旗艦 (flagship)」となることが期待された。

表 2 ポーランドにおける大銀行の所有と市場シェア (1999 年)

	資産シェア (%)	所有	戦略的所有者
PKO BP	17.6	国有	
PeKaO SA	17.5	98/6 民営化	99/6
BPH+PBK	9.5	BPH 95/1 民営化 PBK 97/10 民営化 2001/12 合併	BPH 99/11 PBK 97/10
BH+Citibank	8.0	97/6 民営化 2000/2 Citibank と合併	2000/2
BIG+BG	6.3	BIG 国内民間 BG 95/12 民営化 98/9 合併	2001/1
BSK+ING	5.5	93/9 民営化 2001/4 ING と合併	96/7
WBK+BZ	5.4	WBK 93/3 民営化 BZ 1999 民営化 2000/12 合併	WBK 97/4 BZ 1999
BGZ	5.1	国有	
Kredyt Bank	4.3	国内民間	1999
BRE	4.2	92/6 民営化	2000/10
Total	83.4		

出所) Bonin *et al.* (2005) Appendix より (一部を筆者による修正・翻訳)

19) 資料上の制約により、この内訳の一部には筆者による推計値を含む。

20) Bank Millenium Homepage より。

ワルシャワ商業銀行 (BH) は、1997 年に IPO 方式により民営化された。BH は予定されていた BPH との合併が流れて、単独で IPO 方式により民営化された。BH は分散化された所有となり、国家持分が 7.9% 残されていた。

外貨貯蓄銀行 (Pekao SA) は、1996 年には地域別 9 商業銀行のポモージェ信用銀行 (PBKS)、貯蓄信用銀行 (BDK)、一般産業銀行 (PBG) の 3 行を吸収し、Pekao グループとなった。1998 年には 15% の持分が IPO 方式により国内市場で売却された²¹⁾。

2 ポーランドの銀行部門の統合 (1998–2002 年)

ポーランドでは 1998 年 1 月より新銀行法および新国立銀行法が施行された。銀行法では (EU 水準の) 500 万 ECU の最低自己資本規制が導入された。この法は、自己資本規制の要求を満たしていない銀行に対し、2 年以内の増資を義務づけた。この要件は、中小銀行の成長を加速させ、ポーランドの銀行部門への外資の参入を促した。また 1999 年 1 月には、外資系銀行に対して適用されていた、より大きな株式ブロックの購入、新規支店の開設、ポーランドでの銀行設立の免許取得に関する制限が撤廃された^{22) 23)}。

・ポーランドの銀行民営化 (1998–2002 年)

ポーランドの銀行部門では、1998 年以降には、SFFI 方式での民営化が進められている。

西部銀行 (BZ) は地域別 9 商業銀行のうち最後に残されたが、1999 年にアイルランドの AIB に 80% の持分が売却される形で民営化された。国家には 4.3% の持分が残された。

Pekao グループ (Bank Pekao) は 1999 年にグループを 1 つの銀行として統合した上で、結局国内資本にではなく、外国資本に売却されることとなり、SFFI 方式でイタリアの銀行 UniCredit とドイツの保険会社 Allianz に 52.09% の持分が売却された。また EBRD に 5.25% の持分が売却され、国家持分としては 13.9% が残された。

また、1998 年以降には、以前に民営化された銀行が外国資本に買収されたケースも多い。

PBK は 1998 年にオーストリアの銀行 Bank Austria-Creditanstalt (BA-CA) が 15% の持分を取得し、1999 年に 43.5%、2000 年に 57.13% と持分を増やして、単独で過半数の所有となった。

BPH は 1998 年にドイツの銀行 Hypo-Vereinsbank (HVB) が国家持分のうち 36.72% 分を取得し、翌 1999 年には EBRD の所有分も獲得するなど、60.14% と単独で過半数の所有となった。2002 年には HVB による BA-CA の買収の結果、BPH は上記の PBK (BA-CA の傘下) と合併

21) Balcerowicz and Bratkowski (2001)

22) Hyz (2009)

23) この自由化は、ポーランドが OECD 加盟の際に行った公約の結果であるという (Hyz, 2009)。

して BPH PBK となった（2004 年に Bank BPH に名称を変更）。

BH は、2000 年にアメリカの Citibank グループが 87.83% の持分を獲得した。

BRE は、2000 年にドイツの Commerzbank が持分を 50% に増やした。BRE は後に mBank に名称を変更している。

BIG Bank Gdanski は、ポルトガルの銀行 Banco Comercial Portugues (BCP) が徐々に持分を増やし、2001 年には 46.18%、2002 年には 50% となった²⁴⁾。2003 年に BIG Bank Gdanski は Bank Millennium と改名した。2022 年現在、BCP は Bank Millennium の 50.1% を所有している²⁵⁾。

表 3 ポーランドの銀行統合（1999-2002 年）

合併・買収された銀行	獲得した銀行	統合の原因
1999		
Powszechny Bank Gospodarczy, Pomorski Bank Kredytowy, Bank Depozytowo-Kredytowy	Bank Polska Kasa Opieki (Bank Pekao)	Pekao グループ内の統合
Pierwszy Komercyjny Bank w Lublinie (banking enterprise)	Powszechny Bank Kredytowy	PBK による市場シェアの拡大と 再建プログラムの継続
Hypo-Bank Polska, HypoVereinsbank Polska	Bank Przemysłowo-Handlowy	Hypo-Vereinsbank (HVB) グループ 内の統合
Bank Energetyki	Bank Inicjatyw Społeczno- Ekonomicznych	BISE による市場シェアの拡大と 再建プログラムの継続
2000		
BWR Real Bank	Bank Współpracy Regionalnej (2001年から Deutsche Bank 24)	Deutsche Bank による市場シェア の拡大と再建プログラムの継続
Bank Austria Creditanstalt Poland	Powszechny Bank Kredytowy	Bank Austria Creditanstalt のグ ループ内の統合
Gliwicki Bank Handlowy (banking enterprise)	Wielkopolski Bank Kredytowy	WBK による市場シェアの拡大と 再建プログラムの継続
2001		
Bank Komunalny	Bank Własności Pracowniczej „Unibank”	Nordea Bank のグループ内統合
ING Bank NV Oddział w Polsce	ING Bank Śląski	ING Group のグループ内統合
Wielkopolski Bank Rolniczy	ING Bank Śląski	ING Bank Śląski による市場シェ アの拡大と再建プログラムの継続
Wielkopolski Bank Kredytowy, Bank Zachodni	BZ WBK	Allied Irish Bank (AIB) のグルー プ内統合
Bałtycki Bank Regionalny	Gospodarczy Bank Wielkopolski	系列銀行の統合
Bank Inicjatyw Gospodarczych	BIG Bank Gdański	BIG Bank Gdański のグループ内 統合
Citibank (Poland)	Bank Handlowy w Warszawie	Citibank group のグループ内統合

合併・買収された銀行	獲得した銀行	統合の原因
2002		
Powszechny Bank Kredytowy, Bank Przemysłowo-Handlowy	BPH PBK (2004年からBank BPH)	HVBによるBank Austria Creditanstaltの買収の結果として HVBのグループ内統合
Gospodarczy Bank Południowo- Zachodni, Bank Unii Gospodarczej, Lubelski Bank Regionalny, Małopolski Bank Regionalny, Rzeszowski Bank Regionalny, Warmińsko- Mazurski Bank Regionalny	Bank Polskiej Spółdzielczości	系列銀行の統合
Dolnośląski Bank Regionalny	Bank Polskiej Spółdzielczości	系列銀行の統合
Pomorsko-Kujawski Bank Regionalny	Gospodarczy Bank Wielkopolski	系列銀行の統合
Bank Cukrownictwa „Cukrobank”	Bank Inicjatyw Społeczno- Ekonomicznych	BISEによる市場シェアの拡大と 再建プログラムの継続

出所) Kozak (2013) (一部を筆者が翻訳)

表4 ポーランドにおける商業銀行 (1999-2007年)

	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
銀行数	77	74	71	62	60	57	61	63	65
国有銀行のシェア (%)	24.9	23.9	24.6	26.4	25.8	21.6	21.3	19.6	18.8
外国銀行のシェア (%)	49.3	72.5	72.0	70.9	71.6	67.6	69.9	66.5	66.9

出所) Raiffeisen Research (2004, 2006, 2008) より抜粋。

2002年末時点では、大銀行では、一般貯蓄銀行 (PKO BP) と食糧経済銀行 (BGZ) が国有銀行のまま残されていた。

3 ポーランドの銀行部門の統合 (2003-2009年)

国内最大の商業銀行である PKO BP は 2004 年に IPO を実施したが、2009 年末時点でも間接所有を合わせると実質的には国有のままであった。家本 (2015) によれば、PKO BP は「適切かつ戦略的な外国投資家を見いだすことができなかった」との理由から、国営商業銀行のまま据え置かれることとなったという。

2007 年にはイタリアの銀行 UniCredit による HVB の買収の結果、Bank Pekao (UniCredit

✓ 24) Szczesniak (2007)

✓ 25) Bank Millennium Homepage

の傘下)が Bank BPH (HVB の傘下) の 66% の資産を合併した。なお Bank BPH の残り 34% の資産はアメリカの銀行 GE Money Bank に買収された (これは後に Bank BPH に改名した)。

また BGZ は 2008 年にオランダの銀行 Rabobank の子会社となった。BGZ の所有は、2008 年末時点で Rabobank が 59.35%、国家が 37.29%、その他 3.36% となっていた²⁶⁾。その後 Rabobank は国家から残り約 40% の持分を取得した²⁷⁾。

表 5 ポーランドの銀行統合 (2003-2009 年)

買収された銀行	獲得した銀行
2003	
Bank Wschodni	Bank Spółem (後に Euro Bank)
LG Petro Bank	Nordea Bank Polska
Bank Częstochowa	BRE Bank
2004	
Bank Przemysłowy	Getin Bank
GE Bank Mieszkaniowy	GE Capital Bank (後に GE Money Bank)
Spółdzielczy Bank Rozwoju „Samopomoc Chłopska”	Bank BPH
2005	
Bank Svenska Handelsbanken Polska	Svenska Handelsbanken Branch in Poland
Nykredit Bank Hipoteczny	Nykredit Realkredit Branch in Poland
2006	
Danske Bank Polska	Danske Bank Branch in Poland
Calyon Bank Polska	Credit Agricole Corporate and Investment Bank (旧 Calyon) Branch in Poland
BNP Paribas Bank Polska	BNP Paribas Branch in Poland
2007	
BPH の銀行事業の 66%	Bank Pekao
Bankiem Inicjatyw Społeczno-Ekonomicznych (BISE)	Bank DnB NORD Polska
2009	
旧 BPH の約 34% の資産を持つ Bank BPH の株式、いわゆるミニ BPH	GE Money Bank (後に Bank BPH)
Dominet Bank	Fortis Bank Polska
Cetelem Bank Polska	Syigma Bank Branch in Poland

出所) Kozak (2013) (一部を筆者が翻訳)

26) BGZ Homepage 《<http://www.bgz.pl/en/about/history.html#tabs=0>》(2011 年 1 月 31 日アクセス)

27) bne IntelliNews (2013)

4 ポーランドの銀行部門の統合（2010-2014年）

2010年代には、PKO BPの市場を通じた民営化が進められたほか、さらに銀行部門の統合が進んでいった。またスペインのSantanderなど新たなプレーヤーの参入が見られた。

2011年、スペインの銀行Santanderは、アイルランドの銀行AIBからBZ WBKの70.36%の株式を取得した。Santanderは、2011年時点でBZ WBKの95.67%の持分を獲得した²⁸⁾。Santander傘下となったBZ WBKは、2012年、ベルギーのKBCグループ傘下のKredyt Bankを買収した²⁹⁾。KBCは合併後の銀行の少数株主となった。SantanderとKBCは、2013年3月、合併後のBZ WBK-Kredyt Bankの共同株式21.4%を市場で売却した。またBZ WBKは、Santanderの子会社Santander Consumer Bankの60%を株式交換により取得することで合意した³⁰⁾。

PKO BPは、2012年に市場を通じた民営化が行われた。政府はPKOの19.55%の株式を、証券取引所を通じて2012年7月、2013年1月の2段階に分けて、1株当たり32ズウォティで売却した^{31) 32)}。またPKO BPは、2014年に北欧の銀行Nordeaのポーランド事業を約6億2000万ユーロで買収した³³⁾。

2012年にRaiffeisen Bank International AG (RBI)は、ギリシャの銀行EFG Eurobank Ergasias S.A. (Eurobank EFG)が所有するPolbank EFG (Polbank)の70%の持分を取得することで合意した³⁴⁾。ただしこの買収は、2016年半ばまでにRBIがワルシャワ証券取引所に株式を上場するか、そのポーランド子会社の15%をIPOの形で上場することを条件として認可された³⁵⁾。後にRaiffeisen Bank PolskaとPolbankは合併した。

2013年、フランスの銀行BNP Paribasは、オランダの銀行Rabobankから当時ポーランドで11位の銀行BGZの株式の過半数を取得することで合意した³⁶⁾。この買収はBNP ParibasがBGZの74.39%の株式を取得し、2014年に完了した³⁷⁾。BNP ParibasはBNP Paribas Bank Polska S.A.をBGZと統合し、ポーランドで7位の銀行BGZ BNP Paribasが誕生した³⁸⁾。

28) Santander Bank Polska Homepage

29) Kozak (2013)

30) Raiffeisen Research (2014)

31) Raiffeisen Research (2013)

32) ただしPKO BPにおける(国家以外の)大投資家の所有は、投票権で最大10%までに制限されている(Erste Group Research, 2021)。

33) Raiffeisen Research (2014)

34) Raiffeisen Bank (2011)

35) Mero and Piroška (2016)によれば、これはポーランドの銀行の「国内化」の第一歩であったという。

36) *Reuter* (2013), Raiffeisen Research (2014)

37) BNP Paribas Homepage

38) BNP Paribas Homepage, *Reuter* (2015)

表6 ポーランドの銀行統合 (2010-2014年)

買収された銀行	獲得した銀行
2010	
Noble Bank	Getin Bank (後に Getin Noble Bank)
Commerzbank Branch in Poland	BRE Bank
2011	
AIG Bank Polska	Santander Consumer Bank
ING Bank Hipoteczny	ING Bank Śląski
Mazowiecki Bank Regionalny	Gospodarczy Bank Wielkopolski (後に SGB)
2012	
Polbank EFG	Raiffeisen Bank Polska
Get Bank	Getin Noble Bank
2013	
Kredyt Bank	Bank Zachodni WBK
RCI Bank Polska	RCI Banque Branch in Poland
The retail part of Bank DnB Nord Polska	Getin Noble Bank
Credit Agricole Corporate and Investment Bank Branch in Poland	Credit Agricole Bank Polska
2014	
BGZ	BNP Paribas
Santander Consumer Bank	Bank Zachodni WBK
Nordea Bank Polska S.A.	PKO BP

出所) Kozak (2013), Raiffeisen Research (2013, 2014, 2015) (一部は筆者の翻訳)

5 ポーランドの銀行部門の統合 (2015-2021年)

近年の中東欧の銀行保有比率の動向では、欧米の大手銀行が市場戦略をより選別し、過去数年で一定の市場撤退がみられ、また地場銀行や国有銀行の存在感を高めようとする政治的・規制的な意図がみられた (Raiffeisen Research, 2017)。ポーランドでは、2015年以降には国営保険会社 PZU などを通じた再編により、国有銀行の比率の増加がみられた。国有銀行の資産比率は、2015年には18%であったが、2017年には34%に増加した (Raiffeisen Research, 2020)。また2016年にポーランドに初めて導入された「金融機関税」³⁹⁾は、銀行部門に36億ズウォティ

39) 金融機関税は、資産残高40億ズウォティ以上の銀行・20億ズウォティ以上の保険会社の総資産残高(国債を除く)に対し年0.44%課税するものであった(国際金融情報センター, 2019)。

(10億5000万ドル)という大きなコストをもたらした (*The Banker*, 2018)。また統合の中で、オーストリアの Raiffeisen Bank やフランスの Societe General (SocGen)、イタリアの UniCredit といった、中東欧地域に積極的に進出してきた外国銀行のポーランドからの退出がみられた。

ポーランドの国営保険会社 PZU は、2016年にイタリアのコングロメリット Carlo Tassara から Alior Bank の株式の 25.3% を 3億9600万ユーロで購入した。さらに PZU 傘下となった Alior Bank は GE Capital から 3億6000万ドルで Bank BPH を買収した⁴⁰⁾。

さらに近年で最大の銀行買収となったのが、2016年に PZU および国営のポーランド開発基金 (PFR) が、UniCredit 傘下で国内資産規模 2位の Bank Pekao の株式 32.8% を、2兆382億ユーロで買収したことである⁴¹⁾。

Deloitte (2021) は、PZU の活動から、ポーランドの銀行市場で最も積極的に統合を行った者は、(銀行部門の国内所有比率を高めるという意図をもった) 国家であった、としている。

2018年、Santander グループが所有する BZ WBK は、Deutsche Bank Polska のリテールおよびプライベートバンキング事業を、3億500万ユーロで買収した。この取引により、Santander は 113の支店、1500人の従業員、約43億5000万ユーロの資産を獲得した⁴²⁾。なお BZ WBK は 2018年9月に Santander Bank Polska に名称を変更している⁴³⁾。

2018年には、BGZ BNP Paribas は、Raiffeisen Bank Polska の中核事業を Raiffeisen Bank International (RBI)⁴⁴⁾ から 7億7500万ユーロで買収することで合意した。また 2018年、Raiffeisen Bank International は、EBRD に BGZ BNP Paribas の 4.5% の株式を売却し、この取引を通じて、Raiffeisen Bank はポーランドから完全に撤退した⁴⁵⁾。

2019年に BCP 傘下の Bank Millennium (旧 BIG Bank Gdanski) は、フランスの銀行 Societe General (SocGen) のポーランド子会社 Euro Bank の 99.79% を買収した。この取引により SocGen はポーランドから完全に撤退した⁴⁶⁾。

2019年、Commerzbank は傘下の mBank (旧 BRE) の過半数株式 (69.3%) を売却すると発表した。Commerzbank の保有する株式の簿価は約 26億ユーロに相当する。しかし 2020年、COVID-19 危機の発生による不利な市場環境のため、Commerzbank はこの売却を取りやめた⁴⁷⁾。

2021年、Bank Pekao はイデア銀行を買収した⁴⁸⁾。

40) Deloitte (2021)

41) Raiffeisen Research (2017), Deloitte (2021), Kozarzewski (2021)

42) Deloitte (2021)

43) Santander Bank Polska Homepage

44) Raiffeisen bank International は Raiffeisen bank の欧州新興国事業の子会社 (当時) である。

45) Deloitte (2021)

46) Ibid.

47) Ibid.

48) Ibid.

ポーランドでは、以上のような統合の結果として、銀行数は、1993年の87行から2019年には62行にまで減少した（表1、表4、表8）。国有銀行のシェアは、2008年には17%にまで低下していたが、2016年以降、30%台に上昇している。一方、外国銀行のシェアは、2000年には72.5%まで上昇していたが、2016年以降50%台に低下している（表4、表8）。

表7 ポーランドにおける銀行のM & A取引（2015-2021年11月）

	買収された銀行	獲得した銀行	獲得した割合	売り手
2015	Meritum Bank ICB	Alior Bank	97.9%	EBRD; Innova Capital; WCP Cooperatief
2015	SKOK Wesola	PKO	100.0%	n.a.
2015	Nest Bank	AnaCap Financial Partner	100.0%	Abris Capital Partners
2016	Alior Bank	PZU	25.3%	Carlo Tassara
2016	Bank BPH	Alior Bank	100.0%	GE Capital
2016	Bank Pekao	PZU	32.8%	UniCredit
2018	Deutsche Bank Polska	Santander	100.0%	Deutsche Bank
2018	Raiffeisen Bank Polska	BNP Paribas	100.0%	Raiffeisen
2018	BGZ BNP Paribas	EBRD	4.5%	Raiffeisen
2019	Euro Bank	Bank Millennium	99.8%	Société Générale
2020	Bank Spółdzielczy w Przemkowie	SGB-Bank SA	100.0%	n.a.
2021	Idea Bank SA (Certain assets and liabilities)	Bank Pekao SA	100.0%	Idea Bank SA

出所) Deloitte (2021)

表8 ポーランドにおける商業銀行（2008-2019年）

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
銀行数	70	67	70	66	69	69	66	65	63	63	63	62
国有銀行のシェア(%)	17	21	22	22	21	21	18	18	32	34	32.5	33
外国銀行のシェア(%)	67	63	66	66	63	62	60	61	55	54	54	54

出所) Raiffeisen Research (2013, 2014, 2017, 2020) より抜粋。

表9 ポーランドにおける大銀行の所有と市場シェア (2020年)

	銀行名	総資産 (百万ユーロ)	資産シェア (%)	主要株主
1	PKO	74,765	14.5	State of Poland
2	Pekao	48,771	9.5	State of Poland
3	Santander Bank Polska	44,551	8.6	Santander
4	ING BSK	39,247	7.6	ING
5	mBank	37,273	7.2	Commerzbank
6	Bank Gospodarstwa Krajowego	35,156	6.8	State of Poland
7	BGZ BNP Paribas	25,065	4.9	BNP Paribas
8	Millennium	21,277	4.1	BCP
9	Alior Bank	16,959	3.3	State of Poland
10	Bank Handlowy w Warszawie	13,297	2.6	Citibank

出所) Deloitte (2021) より抜粋。

6 まとめにかえて

ここまで見てきたように、ポーランドの銀行部門では、体制移行当初の銀行数の急増から1990年代半ば以降、統合が進むとともに、民営化も進展し、「外資系銀行の支配」がみられたのちに、近年になって逆に国有化の動きがみられるようになった。このような銀行部門の国有化は、ポーランドに何をもたらすのであろうか。

銀行部門の「国内化」・「再ポーランド化」の議論は、ポーランドの銀行家だけではなく経済学者によっても議論された (Naczyk, 2014)。また Mero and Piroaska (2016) によれば、中央銀行総裁を含むポーランドの政策担当者は、銀行システムの「国内化」が効果的で機能的な銀行システムのために有用であると宣言している。

また2015年に政権を獲得した民族主義政党「法と正義 (PiS)」は、銀行におけるポーランド人所有者の増加に関するコミットメントを強化している (Mero and Piroaska, 2016; *Euromoney*, 2018)。PiSの政治家によれば、ポーランドの銀行部門における外国人所有比率を下げるために、PZUによる Alior Bank と Bank Pekao の買収が必要であったという。彼らは欧米の銀行グループは、ポーランドの企業や消費者の利益を真に考えることはないであろうと主張する⁴⁹⁾。

このような銀行部門の「国内化」はハンガリーでも見られた。2010年代以降のオルバーン政権の下で、国有化と外国銀行の一部の撤退が進められ、また再民営化と再編によって、銀行部

49) また2017年12月に首相に就任したマテウシュ・モラヴィエツキは、BZ WBK (現 Santander Bank) の元銀行員であり、ポーランドの外国企業への依存を批判しているという (*Euromoney*, 2018)。

門資産の過半数は「国内民間資本」の所有となった（高田, 2022）。

一方でポーランドでは銀行が国内民間資本の手に渡るのではなく、国家が銀行の筆頭株主にとどまる「事実上の国有銀行」となっている。これは、国家は過半数の持分を持たないが、国家以外の所有が分散化されているため、実質的に国家が銀行に影響力を保持する状態である。

国有銀行の存在については否定的な研究結果もある。La Porta *et al.* (2002) によれば、国有銀行の存在については2つの異なる見解がある。一つは「開発的」見解で、民間銀行が開発に十分な役割を果たせない状況で、政府が国有銀行を通じて金融及び経済の発展に弾みをつける。もう一つは「政治的」見解で、政府は国有銀行を通じて支持者に便宜を与えて、その見返りを得る。La Porta *et al.* (2002) は92カ国の各国の10大銀行について所有構造とマクロ経済への影響について実証分析を行い、銀行の国家所有の割合が大きい国ほど、一人当たり所得の成長率と生産性成長率が鈍化することを示し、この結果は「政治的」見解と一致するとしている。

資産順位で上位1位と2位の銀行で国家が筆頭株主であるポーランドの銀行部門が長期的に金融と経済の発展の阻害につながらないかどうか、今後の行方が注目される。

参考文献

- Abarbanell, Jeffery S. and Bonin, John P. (1997) "Bank Privatization in Poland: The Case of Bank Śląski," *Journal of Comparative Economics*, Vol.25, pp.31-61.
- Anderson, Ronald W. and Kegels, Chantal (1998) *Transition Banking*, Clarendon Press Oxford.
- Bank Millennium Homepage
- Balcerowicz, Ewa and Bratkowski, Andrzej (2001) "Restructuring and Development of the Banking Sector in Poland," Case Reports, Center for Social and Economic Research, No. 44, Warsaw.
- BGZ Homepage 《<http://www.bgz.pl/en/about/history.html#tabs=0>》(2011年1月31日アクセス)
- Bne IntelliNews (2013) "Polish bank M&A back in spotlight after Pekao's reported bid for BGZ" 2013.8.7.
- BNP Paribas Homepage
- Bonin, John P., Hasan, I. and Wachtel, Paul (2005) "Privatization matters: bank efficiency in transition countries," *Journal of Banking and Finance*, vol. 29, 2005, pp.2155-2178.
- Deloitte (2021) *CEE Banking M&A Study 2021*.
- Erste Group Research (2021) *PKO Bank Polski, 2021.7.22*.
- Euromoney* (2018) "Poland Banking: Public dis-service," February 07, 2018.
- Hyz, Alina (2009) "Consolidation process in Polish banking sector—Cultural aspect" 《<https://www.researchgate.net/>》
- Kokoszczynski, Ryszard (2001) "Structural changes in the Polish banking industry—three dimensions of consolidation processes in an emerging economy," in *The banking industry in the emerging market economies: competition, consolidation and systemic stability*, vol. 04, Bank for International Settlements.
- Kozarzewski, Piotr (2021) *State Corporate Control in Transition: Poland in a Comparative Perspective*, Palgrave Macmillan.
- Kozak, Sylwester (2013) "Consolidation of the banking sector in Poland in 1989-2013 in comparison with the structural changes of the banking sector in the USA and the EU," *NBP Working Paper* No.166, Narodowy Bank Polski.

- La Porta, Rafael, Lopez-De-Silanes, Florencio and Shleifer, Andrei (2002) "Government Ownership of Banks," *The Journal of Finance*, vol. 57, no. 1, pp. 265-301.
- Méró, Katalin and Piroska, Dora (2016) Banking Union and banking nationalism —Explaining opt-out choices of Hungary, Poland and the Czech Republic, *Policy and Society*, 35:3, pp. 215-226.
- Naczyk, Marek (2014) "Budapest in Warsaw: Central European Business Elites and the Rise of Economic Patriotism Since the Crisis" [《https://www.researchgate.net/》](https://www.researchgate.net/)
- Raiffeisen Bank (2011) "Raiffeisen Bank International acquires 70 per cent of Polbank" Raiffeisen Bank Homepage
- Raiffeisen Research (2004) *CEE Banking Sector Report 2004*.
- Raiffeisen Research (2006) *CEE Banking Sector Report 2006*.
- Raiffeisen Research (2008) *CEE Banking Sector Report 2008*.
- Raiffeisen Research (2011) *CEE Banking Sector Report 2011*.
- Raiffeisen Research (2013) *CEE Banking Sector Report 2013*.
- Raiffeisen Research (2014) *CEE Banking Sector Report 2014*.
- Raiffeisen Research (2015) *CEE Banking Sector Report 2015*.
- Raiffeisen Research (2016) *CEE Banking Sector Report 2016*.
- Raiffeisen Research (2017) *CEE Banking Sector Report 2017*.
- Raiffeisen Research (2020) *CEE Banking Sector Report 2020*.
- Reuter (2013) "BNP Paribas agrees to buy Rabobank's Polish unit for \$1.4 billion," 2013.12.6.
- Reuter (2015) "Polish merger of BGZ and BNP to bring \$97 mln savings by 2017 - BGZ," 2015.4.30.
- Santander Bank Polska Homepage
- Szczesniak, Anna (2007) "Building Strategic Alliances to Maintain Independence: Bank Millennium and Banco Comercial Portugues," in Mayer, Klaus E. and Estrin, Saul eds. *Acquisition Strategies in European Emerging Markets*, Palgrave MacMillan.
- The Banker* (2018) "Poland's banking sector heads for consolidation," 2018.3.4.
- 家本博一 (2015) 「49.なぜポーランドはプラス成長を続けるのか」ユーラシア研究所レポート。
- 家本博一・田口雅弘 (2022) 「ポーランドにおける体制転換以降の政治・経済・社会的変動」『岡山大学経済学会雑誌』第53巻第3号。
- 国際金融情報センター (2019) 「ポーランド上下院総選挙～与党「法と正義」(PiS)が第一党の座を維持」『国際金融』2019年12月1日号。
- 在ポーランド日本国大使館ホームページ「モラヴィエツキ政権の顔ぶれ」。
- 高田公 (2017) 『中東欧体制移行諸国における金融システムの構築』時潮社。
- 高田公 (2022) 「ハンガリーの銀行部門の所有構造の変化——30年間の動向」『研究年報』和歌山大学経済学会, 第26号。
- 田中壽雄 (1990) 『ソ連・東欧の金融ペレストロイカ』東洋経済新報社。
- 田中宏 (2015) 「ハンガリーが辿り着いた先—国家資本主義3.0」『季刊経済理論』第52巻第2号。
- ブルームバーグ (2012) 「サンタンデール銀とKBC, ポーランド銀行事業統合で合意」2012年2月28日。
- 本間勝・青山繁 (1998) 『東欧・ロシアの金融市場』東洋経済新報社。
- 溝端佐登史 (2015) 「ロシアにおける国家資本主義」『季刊経済理論』第52巻第2号。

Consolidation, Privatization and Nationalization of the Polish Banking Sector

KO TAKATA

Abstract

In Central and Eastern European countries, a prominent feature of the banking sector has been domination by foreign banks. In recent years, however, some countries in Central and Eastern Europe have seen a decline in the share of foreign-owned banks as the banking sector has become more integrated. In Poland, the share of state-owned banks has been rising, in contrast to the privatization trend from the 1990s to the early 2000s. This paper provides an overview of this consolidation of the Polish banking sector.